

平成27年度 糸魚川市理科部 活動報告

部長 部長 吉田 一郎

1 研究主題

- (1) 理科授業の向上に向けて「見つめ、確かめ、自ら考える理科学習」を目指して
- (2) 「糸魚川世界ジオパークの自然」を学ぶ

2 研究の概要

- (1) 7月9日(木)糸魚川東小学校を会場に、5年生の理科授業を公開し、小・中学校の理科部員が互いに理科の授業力向上を図ることをねらいとした参観・協議を行った。また、11月19日(木)に上越科学技術教育研究会主催の第54回教職員理科研究発表会に参加して研修を深めた。
- (2) 糸魚川市理科教育センター、糸西自然友の会との共催で、8月7・8日に、糸魚川世界ジオパークのジオサイトである新潟県最高峰小蓮華岳登山研修会を開催した。

3 研究の実際

(1-1) 授業研究会

- ① 授業者：糸魚川東小学校 内藤寿一 教諭 (学級：5年2組30名)
- ② 単元名 「生命の誕生」～メダカの誕生～
- ③ 単元における指導の構想
 - ・「見つめ」…卵生と胎生の特徴を考え、どちらが有利か問題意識をもつ
 - ・「確かめ」…卵生と胎生のメリット、デメリットを話し合い、実験で確かめる
 - ・「自ら考える」…話し合いの結果から、自分の考えを見つめ直し、より考えを深める
- ④ 本時のねらい
卵生と胎生の子どもの生まれ方を比較する活動を通して、それぞれの特徴や良さに気付く。
- ⑤ 展開の概要
導入では、「自由に選べるとしたら、卵で産む？赤ちゃんで産む？」と問いかけ自分の考えをもたせた。そして、卵生と胎生の有利不利を子ども同士で話し合い、卵生と胎生の違いを明らかにした。その上で、それぞれに有利な面、不利な面があることを知って自分の考えを深めた。

(1-2) 第54回教職員理科研究発表会への参加

発表会に参加し、身近な地域素材の教材化や授業づくり、自然科学の専門的な研究成果にふれ、理科の面白さを実感した。また、上越教育大学大学院学校教育研究科教授桐生 徹様から「アクティブ・ラーニングと理科の学習」についての講話をお聞きし、アクティブ・ラーニングについて研修して実践意欲を高めた。

(2) 登山研修会

1日目は、梅池高原から白馬大池に登り、ハクサンコザクラやアオノツガザクラ等の高山植物の群生を観察し、魅了されて一泊した。

2日目は、白馬大池小屋から小蓮華山を経て、白馬岳の登頂を果たした。登山道沿いのコマクサやシナノキンポウゲ、ハクサンイチゲの見事な群生に大いに感動した。参加者一同、糸魚川世界ジオパークでの研修を大いに楽しむことができた。

4 成果と課題

改めて教材研究の大切さを会員一人一人が実感した研修会だった。また、糸魚川の地域素材の教材化の面白さと効果的な授業についても研修を深めることができた。

なお、組織的に地域素材の研修をすることや理科仲間を増やすこと、仲間同士の情報交換の場の必要性等が課題として挙げられる。